

クリエイティブ高松・中央通りプロムナードについて

建設省四国地建審川工事事務所、正会員、川崎末和○山本崇

1. はじめに

高松駅と栗林公園を結ぶ南北2.4km、幅員36mの中央通りは、玉藻公園、中央公園、栗林公園といった市民の憩いの場と接し、中央分離帯には昭和24年に植えられたクス並木が並び、企業、官庁、金融機関が集中するビル街をつらぬく高松市のシンボルロードです。また、昭和61年には、「日本の道百選」に選定されています。

その中央通りを、さらに安全・快適で美しい都市空間創出のために、「クリエイティブ高松・中央通りプロムナード事業」として、電力・電話などの電線類を地中化するとともに、歩道舗装、標識及び照明等を親しみやすいものとすることによって、快適な道路空間の創造を図ったものです。

プロムナード計画の中心となる番町交差点は中央通りの中心に位置し、主要幹線道路(R11, R30)が交差し、日交通量が8万台を超える県内随一の交通の要衝です。ここに明るい地下広場を作ることによって、安全で快適な交差点となるよう計画したものです。

2. 全体基本計画

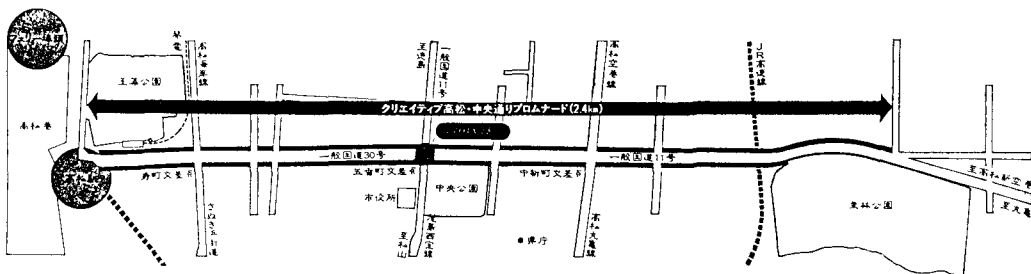
「クリエイティブ高松・中央通りプロムナード計画」の中で、中央通りを三つの地区に分けてそれぞれの整備事項を計画した。以下にその概要を示す。

- 高松駅前～県道高松港線 テーマ名：海とお城の見える広場づくり
- 番町交差点付近（中央公園付近） テーマ名：ふれあいの場づくり
- 栗林公園付近 テーマ名：水辺のある遊歩道づくり

① キャブ

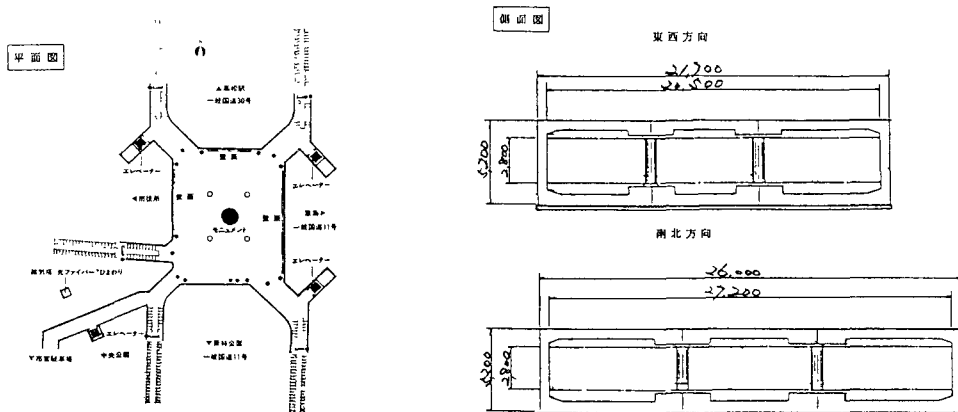
CAB事業として、歩道下に、横1m、縦85cmのコンクリートボックスをつくり、電力、電話、道路照明、信号などのケーブルを収容する。

歩道にはカラーブロックを並べ、ブロンズ系統の街路灯ならびに案内標識を整備し、ハナミズキを植樹する。

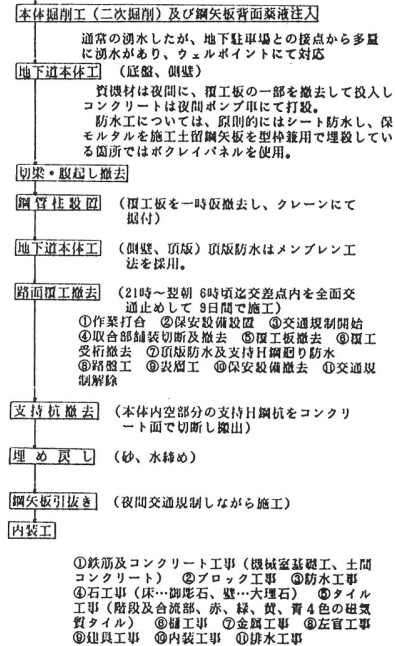
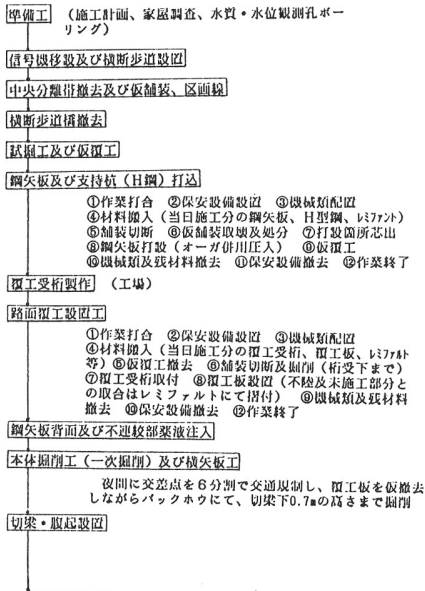


② 地下道計画

横断地下道としての単なる機能だけでなく、「ふれあいの場づくり」をテーマとし、利用者にとって憩いと安らぎの地下空間の確保のため、東西20.5m、南北26m、斜路付階段5ヶ所、市営駐車場との連絡道路1ヶ所、広場内には壁画や彫刻を配慮し、芸術性豊かな広場にしようとしたものです。交通弱者にも利用しやすいように、全国でも先駆けて昇降用エレベータ4基を設置しています。また、地下広場へは愛称「光の広場」にふさわしく、太陽光を光ファイバーで直接取り入れています。



工事フロー



工事工程表

工 種		作業 区分	昭和63年				平成元年												平成2年												
			9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3										
本 体 工	準 備 工																														
	信号機移設、歩道橋撤去	昼																													
	中央分離帯撤去、仮舗装	夜																													
	仮覆工、試験工	〃																													
	鋼矢板・H鋼杭打設	〃																													
	路 面 覆 工	〃																													
	薬液注入工、裏込工	〃																													
	掘 削	昼夜																													
	本体工（本体部）	〃																													
	〃（機械室、斜路）	〃																													
工	埋戻（砂）	夜																													
	覆工板撤去	〃																													
	鋼矢板引抜	〃																													
	路 面 復 旧	〃																													
建 築	内装、設備工	昼																													
	壁画、モニュメント（高松市）	〃																													

3. おわりに

工事は、本格的な都市部での土木工事として、多くの経験や今後への教訓を得ることができた。また、短期間でかつ様々な工事が集中したにもかかわらず、事故、災害の全くなかったことは、関係機関の協力、工事関係者の努力の結果であり、心から厚く御礼を申し上げます。

この番町地下広場を含む「クリエイティブ高松・中央通りプロムナード」の完成により、四国各地でもさらに豊かさを求め、安全で個性的な都市づくりを目指して、すばらしいどうろ空間の創出が進められることでしょう。

